平成28年度

水へ雪をよむ

**人賞作品集** 

松江市 松江市教育委員会 八雲会

全世界に紹介しました。松江市では、現在の「国際文化観光都市・松江」の礎を築い なかで、当時失われつつあった古き良き日本の面影を見い出し、美しい文章に載せて 文豪小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、松江での一年三ヶ月にわたる暮らしの

た小泉八雲の顕彰を目的とする様々な事業を行っています。

この一環として、 昭和六十一年から毎年行っている「小泉八雲をよむ

感想文・詩

詩四十四

の募集事業も今年で三十一回目となりました。今回は、感想文八十一編、

編、 合計百二十五編の力作をお寄せいただきました。

この作品集では、応募作品のうち優秀賞及び優良賞を受賞した九編の作品を掲載し

ています。ぜひ多くの皆様にこの作品集をご覧いただき、小泉八雲を身近に感じる契

機としていただきたいと考えています。 最後になりますが、ご応募いただきました皆様をはじめ、この事業にご協力いただ

きました皆様方に感謝申し上げます。 平成二十九年三月

松 江

市

主

催

松江市教育委員会

毎日新聞松江支局

後

援

BSS山陰放送

目	次	
第3回 感想文 入賞者		★一般の部
▼小学生の部		〈優秀賞〉
「夏安学堂」		「停車場にて」〜涙の瞬間〜
		五 嶌 幸 夫
の思い		<b>瀬</b> ラ
松江市立母衣小学校 四年 吉 田 、	心 者 <b>*****</b> 1	クールジャパンの源流
〈優良賞〉		成 本 孝 宏9
î	117	第28回 詩 入賞者
本ジアンノ言へ合木・ラを・イー・倉	3	〈優秀賞〉
★中学生の部		
〈優秀賞〉		河網原那覇市 安 里 佳 也········ 1:
学習完女子中拿斗(東京都) 二手 「घ」 II し十六ざくらを読んで	月 里 	〈優良賞〉
Ī		「八雲蟬」
〈優良賞〉		東京都武蔵野市 本 田 しおん 14
笑いに隠された意味		
松江市立第四中学校 三年 村 松 :	桃 佳	講評
★高校生の部		
〈優良賞〉		

山口県立山口高等学校通信制 二年八雲の感性に驚く ~小泉八雲を読んで~

佐竹

真依 ------6

感

想

文

### 小学生の部

### 〈優秀賞〉

# お話にこめられたへるんさんの思い

松江市立母衣小学校四年 吉 田 心 春

し芳一」を初めて読みました。
小泉八雲。それは、松江を愛した青い目の日本人。
し芳一」を初めて読みました。

では、 一年をし芳一」。このお話は、目の見えない琵琶ひき、芳一が亡霊 にあやうい目にあわされてしまうお話です。このお話のこわいとこ のはやはり、芳一が亡霊に耳をもぎとられてしまうところです。か のはやはり、芳一が亡霊に耳をもぎとられてしまうところです。か のはうに のなと思いましたが、芳一は、こわいはずなのに、石のように のはうに のなと思いましたが、芳一は、こわいはずなのに、石のように のは、このお話のこわいとこ

がおくられ、すきな琵琶をひきながら一生幸せにくらしたそうなのとして有名になり、琵琶を聞きに来てくれる人からたくさんのお金お話の結末は、すぐれた医者によってきずはなおり、耳なし芳一

で、芳一は、幸せ者だと思いました。

小泉八雲のお話は、読んでいるとじょうけいがうかんできます。自分が体験しても、何だか、こわいと感じます。なぜだろう? 八宮のお話には、「五感」を使った表現がたくさん出てきます。「耳なし芳一」だと、「まるで鉄のようなぶしの手にひかれて……。」というかんかく。「雪女」では、「びゅうびゅうと風がふきすさぶ音の中に……。」というちょうかく。「耳なし芳一」の芳一は、八雲とにているところがあります。八雲は、十六才の時に、左目が見えなくなりました。芳一は目が見えません。なので二人とも、「五感」を働りました。芳一は目が見えません。なので二人とも、「五感」を働りました。「五感」をとても大切にしていたのが分かります。

の実体験。私はこう思いました。びん感な少年だったそうです。のっぺらぼうの出現のくだりは八雪び急の実体験のお話もあります。小さいころから、八雲は霊的に

「ふしぎな力を持っているな。」

す。

本す。

小泉八雲は一八五○年にギリシャのレフカダ島に生まれ、五十四年ほどだったそうです。松江にいたのは一年三ヶ月。小泉八か十四年ほどだったそうです。松江にいたのは一年三ヶ月。小泉八雲のことを松江の人々は親しみをこめて「へるんさん」とよんでいます。

私はこの夏、へるんさんこうざにさん加しました。へるんさん

のいい所だと思います どいろんなことにきょうみを持ち、前に進んで行くのがへるんさん は、こわいお話を書いていて、かえるがすき。少し変わっているけ

界中にとどいていますよ。 へるんさん、松江を愛してくれてありがとう。あなたのお話は世

### 〈優良賞〉

# 人間のもろさを真理の目で見すえる

松江市立八雲小学校六年 石 倉

要

そろしい警告の声を無視し、さいせん箱をひっつかんだお勝 子どもの首がもぎとられると知っていれば、絶対に行かないはずだ。 た。どうしてお勝は滝に行ってしまったのだろう。ぼくは考えた。 滝の声がリアルで、ぼく自身滝にいる気分になり、夜ねつけなかっ こおりつく夜、二才の子を背負い、真っ暗な滝に向かったお勝。お 「おい、お勝!」小泉八雲記念館に佐野さんの声がひびいた。 幽霊

い生活をするお勝の心の底に、滝に行けば全員の麻糸を丸取りする 愛情がお勝を滝に向かわせる力だと考えて発表した。ぼくは、苦し レゼンテーションを行った。その時ぼくは、 ぼくは、記念館に行く前、尚風館で「幽霊滝の伝説」についてプ お勝の子どもに対する

> アドバイスしてくださった。 理は何だろうか。好奇心にも着目してはどうだろうか。」と先生が たと考えた。発表の後で、「この作品で小泉八雲が伝えたかった真 持ちがあったと思う。その気持ちは、お勝を強くし、 たりすることができる、子どもを喜ばせることができる、という気 ことができ、子どもにおいしい物を食べさせたり、よい着物を着せ

だ。麻とり場の人たちが怪談話をしたり、「一人で滝に行ってみた うふに変わってしまう。 ん間に滝の禁忌にふれ、お勝の大切な子どもの命がうばわれ、きょ しかし、この好奇心は、お勝が滝のさいせん箱に手をのばしたしゅ らどう?」と提案したりしたのも、好奇心がくすぐられたからだ。 確かに、ぼくがこわい話をききたくなるのは、好奇心があるから

は、 う場面や「幽霊滝の伝説」の始めにみんなが滝について語る場面 考えたのではないだろうか。「小豆とぎ橋」の武士が禁忌の謡を謡 見えない世界のルールが破られるしゅん間がある。八雲は、日本人 つけた。きっと八雲は、人間の好奇心を超自然の世界への入り口と きだった。八雲は、ケルトと日本の超自然への考え方に共通点を見 イルランドで育った八雲は、乳母から聞くケルトの超自然の話が好 の見えないものに対する信こうが好きだった。父母とははなれてア 同じように、八雲が書いた「小豆とぎ橋」の最後にも、 好奇心が大たんにアピールされて書かれている。

いると思う。
いると思う。
いると思う。
と思う。
とこには、超自然へのいふがあると思う。八雲は、お勝の肝や変情をこえる超自然の世界をえがき、人間の単純でもろい感情を表う。そこには、超自然へのいふがあると思う。八雲は、お勝の肝やした。人間は、本当は小さくて、圧とう的に弱い生き物だと伝えてした。人間は、本当は小さくて、圧とう的に弱い生き物だと伝えていると思う。

がら、真理を見すえる力をつけていきたいと思う。る目を感じることができた。これからも八雲の足あとを追いかけなぼくは、この作品にふれることで、八雲の人間の心理を追い求め

### 中学生の部

### 〈優秀賞〉

## 十六ざくらを読んで

学習院女子中等科(東京都)二年 西 川 明 里

様に美しかったのを本を読んで思い出しました。た家が残り松江城がそびえ宍道湖にのみ込まれてゆく夕日が燃える小学四年生の時松江を訪れた事があります。小泉八雲が住んでい

小泉八雲の作品で日本の民話や怪談などが多いのは、きっと松江

の美しく穏やかな風景を眺め創作の意欲をかきたてられた為ではないかとさえ思いました。小泉八雲と名前だけ聞きその作品を読んだなら誰もが作者は生まれながらの日本人だと思うでしょう。しかし彼は昔まだ多くの日本人が日本の中だけの日本人として暮らしてい彼は昔まだ多くの日本人が日本の中だけの日本人として暮らしていた時代に異国からやってきて、日本の自然と日本人の心を愛し理解た時代に異国からやってきて、日本の自然と日本人の心を愛し理解と日本に帰化した人なのでした。その事を知った後、彼の作品に向き合った時私の中で今までと違った感覚で作品の文字を追っている自分に気がつきました。それはこれまで外国の文字を追っているき合った事はありませんでした。けれど小泉八雲の作品に触れていると日本の地に生まれてきた奇跡に感謝しなければならないと思うると日本の地に生まれてきた奇跡に感謝しなければならないと思うると日本の地に生まれてきた奇跡に感謝しなければならないと思う様になりました。

「十六ざくら」という作品がありました。とても美しい作品だと思いました。日本人が愛してやまない桜を題材にした短編で題名を入れてもわずか三十行でしかない文章でしたが心ひかれる作品でした。み桜の木を助けるために侍の作法に従って命をさし出してしまうのでした。きっとこの老人が愛したのは庭に咲く桜だけではなかったのだと思います。老人よりも先に死んでしまった子供達や両親、妻など老人が共に生き、共に桜の木の下で集い桜を愛でた人々の思いなど老人が共に生き、共に桜の木の下で集い桜を愛でた人々の思いまでした。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。とても美しい作品だと思いました。という作品がありました。とても美しい作品だと思いました。

いました。この思いになっった時少し恥ずかしい気持ちになりまし た。この老人は自分のなすべき事と時を心得て悟っていたのだと思 返り大切な自分の場所を守りなさいと言われている様でもありまし は時を経て現代の自然を破壊しつづける私達に対する警鐘とも思 いう答えを出して戦いに終止符を打つことができました。このこと は自分と戦うことでした。でも老人はその戦いに自然と同化すると 為の自然と戦いの中にあったのだと思います。しかし老人の戦いと の老人の決断は私には衝撃的なものでした。人の歴史は生きていく れを老人の命日に毎年花咲かせる桜が証明していると思います。こ と思うと決して老人の死は無駄ではなかったと思えます。何よりそ 自ら断つことは私の考えでは許し難い事と思っていますが、この老 断つことの意義に思いを馳せることは難しいことですし何より命を ました。現代を生きている私には自らの「命」を作法にのっとって 姿が浮かびあがってきます。腹切りは日本にしかない習慣だと聞き や散りゆく桜の薄紅色の花びらを丁寧に眺めて時を過ごす老夫婦の 族の笑い声や童をおんぶして子守歌を口ずさむ妻の静かな笑みの顔 章ではありますが脳裏に桜の木の下でお花見をしている賑やかな家 命掛けで守ってきた人々や家族の絆だったのだと思います。短い文 人は自ら守りたい大切な人(物)の為、最後の力を振り絞ったのだ 私の中に日本人という感覚がありながら、日本人という誇りを また日本人の大好きな桜を描く事で日本の心を掘り起こし立ち

送っていきたいと思います。

送っていきたいと思います。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日をきな収穫となりました。この誇りが縮んでしまわないような毎日を受ける場合である。

### 〈優良賞〉

## 笑いに隠された意味

松江市立第四中学校三年 村 松 桃 佳

「笑う」という言葉を聞いてどんな場面を想像するでしょうか。「笑う」という言葉を聞いてどんな場面を想像するでしたかったときに、声を上げて笑うことだと思います。他にも嬉しいことがあったときの微笑みなど、私たちが「笑う」という場面は、ととがあったときの微笑みなど、私たちが「笑う」という場面は、ととがあったときの微笑みなど、私たちはのいます。他にも嬉しいことがあったとき、悲しいときも、私たちはつい笑うことがあります。

私は小泉八雲の「日本人の微笑」という話を読みました。

それは、日本人にとっては当たり前でも、外国人にとっては不可

解な微笑についての話です。

と笑っていたという話です。
から帰ってきた家政婦が、骨壺を見せながら、「これが主人です」ました。それは、イギリス婦人と日本人の家政婦の話で、夫の葬式ました。それは、イギリス婦人と日本人の家政婦の話で、夫の葬式この物語には、何話かの日本人の微笑についてのエピソードが書

イギリス婦人はその笑いに怒っていて、最初はどういう気持ちで 笑っていたのか、私にも全然分かりませんでした。でも、その家政 く辛くても、他の人に心配はかけたくないという気持ちだったのか なと思います。もし自分が本当に悲しそうにしていたら、その婦人 はとても心配するでしょうし、自分の気持ちとしても、いつまでも なた思います。もし自分が本当に悲しそうにしていたら、その婦人 なた思います。もし自分が本当に悲しそうにしていたら、その婦人 なた思います。もし自分が本当に悲しそうにしていたら、その婦人 なかる家政婦は、とても美しいと感じました。

わりませんでした。自分が良かれと思ってしたことでも、それが愉快に思わせないようにしたことです。でもそれが、外国人には伝他のエピソードについても日本人はすべて相手を思いやって、不

しっかり相手に伝わるとは限らないのです。

ちのすれ違いというのは、百年以上経った今でもよくあることだとこの話は一八九四年の作品ですが、この話のようなお互いの気持

思います。

私が友達と二人で放課後、先生に頼まれた用事をしていました。私が友達と二人で放課後、先生に頼まれた用事をしていました。するとうと思って、友達の分を何も言わずに取ってしました。でも私はそのたされで怒っているのか分からなくて、とうとうけんかになってしまいました。そのあと、何を言うまでもなく、いつの間にか仲直しまいました。そのあと、何を言うまでもなく、いつの間にか仲直りしていたのでききそびれていたのですが、最近なんとなく気になって訊いてみました。そしたら、自分のものはちゃんとやり終えなって訊いてみました。そしたら、自分のものはちゃんとやり終えなって訊いてみました。そしたら、自分のものはちゃんだと言われたかったのに何も言わず取られたから怒ってしまったんだと言われたかったのに何も言わず取られたから怒ってしまったんだと言われました。彼女は責任感が強くて、とてもしっかりしているので、あました。彼女は責任感が強くて、とてもしっかりしているので、あました。なるほどなと思いました。

通じにくい外国人は、なおさらだと思います。こんな風に仲の良い人でも気持ちのすれ違いがあるのに、言葉

ら外見だけで判断せずに、いつもその人の気持ちをくみ取って接しせん。そうすると、つい誤解してしまうことが多々あります。だか言葉が通じなければ、その人の表情や行動で判断しないといけませしょくい夕巨ノに、なずさらだと思います。

ていく必要があります。

いし、私も忘れずに過ごしたいと思います。私たちは昔からの、相手を思いやるという気持ちを忘れてはいけなこの日本人の相手への心遣いはとても美しいものだと思います。

### 高校生の部

### 〈優良賞〉

# 八雲の感性に驚く ~小泉八雲を読んで~

## 山口県立山口高等学校通信制二年 佐 竹 真 依

Nずかしいことに、私は下関に住んでいながら、小泉八雲が西洋人であるということを知らなかった。下関は赤間関での壇ノ浦の戦いが用いられた「耳なし芳一」の舞台になったところである。下関に住む者でこれを知らぬ者はいないだろう。もちろん私もその一人として、小学校の学習発表会で、「芳一」の朗読をした。であるにとして、小学校の学習発表会で、「芳一」の朗読をした。であるにという事を、今回作品集を読むまで知らなかったのだ。

えば怪談だと思い込んでいた私には、棚ぼたものである。で夫に従うことを人生のたしなみとする、古来の日本人女性の健気な特性に、八雲は感動の意を表している。八雲の作品に、このような、西洋人としての目線から記したものもあったとは…。八雲といる。質慣に思いをはせ、この日記の作者の女性のように、無私無欲や習慣に思いをはせ、この日記の作者の女性のように、無私無欲

すると、果たして不思議である。というのも、この「ある女の日記」の女性は、これぞこの時代の女性だ、という生き方を貫きつつも酷く不幸であった。二十九歳でやっと所帯に入り翌年男の子を授かった女の子も九ヶ月足らずで亡くし、その子がなくなってから一年経たずして生んだ男の子までも、わずか八日で看取っているのだ。約五年の間に計三人の子を亡くした。あまりに続く子との死別を、この女性は自らが前世で犯した罪への報いだと信じるのだが、を、この女性は自らが前世で犯した罪への報いだと信じるのだが、を、この女性は自らが前世で犯した罪への報いだと信じるのだが、を、この女性は自らが前世で犯した罪への報いだと信じるのだが、を、この方はあまりに日本人らしいものではないか。この日本人特有の感性を、八雲は理解する事が出来たというのだろうか。否、西洋人には理解し難いとの前置きからして、きちんと理解した上でこの作品を残したのだろうが、なんとも信じ難い。

「お貞の話」もその類だろう。また、「乳母桜」や「一六桜」のようら生まれるものである。八雲の「鏡と鐘と」や「葬られた秘密」、は、亡くなった人の怨念や愛憎、あるいは生きている人の強い念か仏教的解釈もあるが、確かに日本の怪談話の幽霊や亡霊、生霊と

には理解し難いだろうと前置きながら、古来の日本人の道徳的観念

なるほど、「ある女の日記」の作中で八雲は、明治を生きた一人

の女性の、

思いの丈が綴られた手記を訳している。

加えて、西洋人

えようか。
うに柳の木の魂が人の形を成すものもある。これらは付喪神、と言うに柳の木の魂が人の形を成すものもある。これらは付喪神、と言に、人の念が桜木に移って花を咲かせるものや、「青柳の話」のよ

れる源が異なることとなる。
日本と他国との間では『思い・念』と『悪魔』という、怪談が生まな現象は悪魔によってもたらされると信じられている。すなわち、な現象は悪魔によってもたらされると信じられている。すなわち、

教、道徳的観念に古来の人々の特性。それらすべてを併せ持った小西洋人としての視点。加えて、日本人の視点、あるいは嗜好、宗

か大きく揺さぶる程の勢いで、感銘を与えてくれた。 
の大きく揺さぶる程の勢いで、感銘を与えてくれた。 
独元が多々登場する事を、改めて誇りに思う。「ある女の日記」の中の古来の日本人女性が、八雲の琴線に触れたのと同じく、八雲の中の古来の日本人女性が、八雲の琴線に触れたのと同じく、八雲のか大きく揺さぶる程の勢いで、感銘を与えてくれた。

### 般の部

## 「停車場にて」~涙の瞬間~〈優秀賞〉

### 五 嶌 幸 夫

ある。 線に位置し、 い物、 の象徴である。 これに私は少なからず衝撃を受けた。これは、明治二十六年の話で るところがある。 文中、 当時、 おそらく再び見ることのない物」を見た、とつ良く語ってい ハーンが「前に一度も見た事のない物、 治安の維持に目を光らせていた。 警官は新政府が国家として国民に及ぼす権力の最前 その警官が一般人の前で涙を見せることなど、誰も それは「日本の警官の涙」というものであった。 国民にとっては権力 めったに人の見な

ハーンはその瞬間を見逃さなかった。が想像もできないことだったのだろう。まさかというその出来事。

警官はなぜ三歳ほどの子どもに語りかけたのであろうか。警官の 世事は法に照らし、その裁きを受けなければならない者を捕縛する ことにある。本来ならば、罪人に向かい、「見なさい、この群衆を。 すべてお前を見に来たのだ。お前の犯した罪を咎めに来たのだ。お 前の犯した殺人という罪はそれだけ重いのだ。お前はこれからその まるがよい」とでも言うところだろう。誰もがその言葉に納得する でるがよい」とでも言うところだろう。誰もがその言葉に納得する

はずである。

しかし、この警官はそうは言わなかった。彼は罪人と群衆の前で、母親の背中のたった一人の残された息子に、別の言葉で語りかで、母親の背中のたった一人の残された息子に、別の言葉で語りかで、母親の背中のたった一人の残された息子に、別の言葉で語りからは、自らの刑罰にあるのではなく、その他人に及ぼした悲劇にあると説いているのである。

に父親を葬り去られてしまったのである。しかも幼さゆえに、今はかわすことなく、一度も頭をなでられることさえもなく、知らぬ間の伴侶をこの男によって奪われた。そしてこの息子は一言も言葉を息子を背中におぶった杉原おきびという名の母親は、大切な生涯

わかる。

「厭でしょうがあなたのつとめです」と言い切っていることからも
見させていることに、この警官の思いの強さが表れている。それは
見させていることに、この警官の思いの強さが表れている。それは
のま痛な魂の叫びを相手にぶつけることさえもままならないの

おそらく法による裁きを強調すれば、そこに大きく浮かび上がってくるのは憎しみでろう。しかし人の道としてとらえれば、そこにてき図的、計画的にこの場面を作り上げたいという可能性もある。しかし、私はそうは思わない。この警官がそのときに発した言葉のしかし、私はそうは思わない。この警官がそのときに発した言葉のではあっても、その前に一個の人間である。この事件の被害者やそではあっても、その前に一個の人間である。この事件の被害者やその家族を目の前にしたとき、おそらく人間としての心の琴線が、図らずも共鳴したのだと思う。

考えるとき、罪の事実、そしてそのとめどもない深さを思い知らされぞれの立場で、常に夫や父親の虚しい影を感じつつ、これから生けられるにちがいない。ときには悲しみのあまり、自らの生きる意味さえも問いかける日々がやってくるかもしれない。その生きる意味さえも問いかける日々がやってくるかもしれない。その苦しみを残された母親の悲哀、そしてこの子どもの行く末。この二人はそ

いをめぐらせた結果、あの言葉と涙につながっていったのだと思う。み抜いたにちがいない。そのような命の重みについて極限にまで思に受け止め、自らの立場として為すべきことの最善は何かと、苦しれるのである。そのことを、きっとこの警官はわが身のことのよう

罪人は、自分から目をそらさず、すすり泣きをしながらもじっと

見ている子どもを前にして、死ぬよりもつらく狂おしい気持ちに襲見ている子どもを前にして、死ぬよりもつらく狂おしい気持ちに襲見ている子どもを前にして、死ぬよりもつらく狂おしい気持ちに襲見ている子どもを前にして、死ぬよりもつらく狂おしい気持ちに襲

繰り返し読むにつけ、ハーンに感謝せずにはいられない。繰り返し読むにつけ、ハーンに感謝せずにはいられない。この話を大よりも日本人を理解しているハーンの、全てを包み込んだ温かな人よりも日本人を理解しているハーンの、全てを包み込んだ温かな人間愛がある。その意味では、この短い話はハーンならではのものであり、ハーンでなければ書けないものであったと思う。この話をであり、ハーンでなければ書けないものであったと思う。この話をであり、ハーンでなければ書けないものであったと思う。この話をであり、ハーンはこれらのことを「(日本人の)子どもに対する潜在的愛であり、ハーンはこれらのことを「(日本人の)子どもに対する潜在的愛

### 〈優良賞〉

## クールジャパンの源流

成本孝宏

ことだった。
ことだった。
日本文化が外国人たちの間で好評を得ている現象を指す言葉である。この言葉を聞くと、自国文化の魅力を見つめまないらしい。そう思った契機は、小泉八雲の松江滞在記を読んだはないらしい。そう思った契機は、小泉八雲の松江滞在記を読んだはないらしい。そう思った契機は、小泉八雲の松江滞在記を読んだはないらしい。そう思った契機は、小泉八雲の松江滞在記を読んだはないらしい。

八雲は島根県尋常中学校の英語教師に着任し、松江に十四ヶ月間であるたい。また、地域の風習や歴史、神話などの解説にて英語による願掛けを発見した際のユーモアを交えた窘めなど、にて英語による願掛けを発見した際のユーモアを交えた窘めなど、にて英語による願掛けを発見した際のユーモアを交えた窘めなど、にて英語による願掛けを発見した際のユーモアを交えた窘めなど、にない。これ、八雲の味わった様々な訪問先での出来事の記述は臨場感にあふれ、八雲の味わった様々な訪問先での出来事の記述は臨場感にあふれ、八雲の味わった感動が伝わってくる。また、地域の風習や歴史、神話などの解説に感動が伝わってくる。また、地域の風習や歴史、神話などの解説に感動が伝わってくる。また、地域の風習や歴史、神話などの解説に書やされた情報量は圧巻の一言に尽きるもので、「出雲富士」の異者を持つ大山をはじめとする風光明媚な情景の描写も織り交ぜら

に陥り、私は作品世界にすっかり没入してしまった。で融合した案内記の誘導で明治期の松江に旅立ったかのような錯覚れ、松江の雰囲気が見事に表現されている。主観と客観が高い次元

ではの文章に底流しているものは、日本文化を賛美する精神だ。その一方で、西洋の文化には容赦ない批判を浴びせている。日本の文字が生命感に溢れているのに対して西洋のそれは生命のない符号に過ぎないと貶めたり、日本に不出来な芸術作品があったら外国の影響下に制作されたものに間違いないと断言したり、日本の生け花について学ぶと西洋の花束は花の野卑な虐殺としか思えなくなると酷響下に制作されたものに間違いないと断言したり、日本の生け花にずしたりしているのである。

しかも、八雲は自身の感想を短期間の観光者の熱に浮かされてのり、自説に説得力を持たせているのだ。過激な印象も否めないものの、英国人の八雲による日本文化称賛に接すると、まさしくクールの、英国人の八雲による日本文化称賛に接すると、まさしくクールの、英国人の八雲による日本文化称賛に接すると、まさしくクールの、英国人の八雲による日本文化称賛に接づいての冷静な意見と断ある。いやm、時代背景を考慮すると、現代のクールジャパンよりも得難い賛辞に違いない。

年――一八九一年の日本は幕末期に欧米諸国と締結させられた不平言えるだろう。それに対して、八雲が松江に滞在していた一八九〇しており、その文化が海外で好意的に受容されるのも自然な展開と現代の日本は国際社会において先進国の一員としての地位を確立

米諸国に従属していた観すらある当時の日本は西洋人から蔑視された。要するに、国際的な地位が高かったとは言い難いどころか、欧代化を目指して西洋文明の摂取に躍起になっていた発展途上国だっ等条約の改正などの対外的な課題を抱え、欧米諸国の模倣による近

てもおかしくない立場だったのだ。

誇りを一層深めた次第なのである。
誇りを一層深めた次第なのである。
一層深めた次第なのである。
一層深めた次第なのである。
一層深めた次第なのである。

をは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは前向きな心とは言うものの、読み進めている間に私が抱いたのは言いますといる。

えてきたのである。

八雲の著作は、日本人に自国の伝統文化の魅力を再認識させるだけではなく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせていると感じた。古き良き日本を懐かしんでノスタルジックな感傷に浸るのでじなく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせていると感じた。

自信を持ち、誇りに見合う努力をしていくことが日本人の使命であ敬愛されてきたほどの魅力があることを実感できた。自国の文化にクールジャパンの源流に触れて、日本文化には外国人から連綿と

ると考えさせられた。



### 〈優秀賞〉

### ムジナの冒険

安 里 佳 也

> 軒先鉢植えシラナイ花が咲いていた どうにかこうにか歩いてる

すり減った靴底引きずって 記憶が刺さる夕凪、蝉時雨

沖縄県那覇市

ムジナは旅に出る

ムジナの旅も

いつかは終わるでしょう

バナナといろはすを買って

真っ直ぐ家に帰る闇夜の中で いつもの変わらぬ蕎麦屋の前で

幾人もの大人たちが慄いた 青白く発光するその顔に ディスプレイの光に照らされ 夜明け前、スマホ片手に歩きだす

ムジナは旅をする

そうして埋没してゆく私の中で

ムジナが私を掴まえる

私はムジナを振りほどく

顔は無くても有る様に

顔は有っても無い様に

ムジナはムジナを掴まえる

あの日のことを忘れるために

自動ドアが自分にだけ反応しなかった

お腹が痛くてもペダルを漕いで 自転車走らせ、紀国坂を登り切る

ムジナはムジナを振りほどく

顔は無くても有る様に

顔は有っても無い様に

ムジナはいつも旅の途中

どのように視えていたのでしょう

そんな私があなたには

-13 -

### (優良賞)

### 「八雲蟬」

### 東京都武蔵野市 本 田

しおん

英語教師として

祝福してくれたはずだ

クレオールを継いだ cicada は ハーンの記者としての活躍を

ツクツクボウシが ハーンを

松江に赴任した夏も

祝福を込め迎えた

ギリシャのレフカダでは

蟬時雨を連れて

暑い 暑い 夏が来た あぁ 今年も松江に

τζιτζίκιとなったティトノスが レフカディテコスにのって

ハーンの生誕を

祝福したに違いない

松江の人となった夏にも セツと結婚して

ヒグラシの声は ヘルンへの

祝福に満ちていた

アイルランドのダブリンでは

ケルトのリズムにのって

ヒースの茂みで piobaire fraoige が

ハーンの成長を

祝福してくれたのだろう

デキシーランドジャズにのって ルイジアナのニューオリンズでは

ハーン ハーン と

塩見縄手の銅像の前では ミンミンゼミの綴音が ミーン ミーンという

ヘルンを呼ぶセツの声に

私には聞こえた

-14-

### 講評

### 《感想文》

### ◇小学生の部

は、本事業の趣旨に沿い喜ばしいことだと思う。八雲の作品世界に浸り、自分の思いや考えを文章で表現したことの小学の作品世界に浸り、自分の思いや考えを文章で表現したことが、本事業の趣旨に沿いる。

み語りを聴いての感想など、さまざまであった。みに開かれた「へるんさん講座」に参加して学んだこと、作品の読み年度の感想文は、八雲作品のゆかりの地を訪ねての印象、夏休

親しみを感じていることが伝わってくる。に表現している。筆者が物語の世界に心地よく浸りながら、八雲にうに、八雲について得た知識をもとに作品を読み、その感想を素直に書いている。「耳なし芳一は八雲と似ています」という感想のよ優秀賞作品の筆者は、「へるんさん講座」に参加した体験をもと

員にとって何よりの喜びであった。(講評者 柳野 祐子)も、八雲の作品を読んだ喜びや楽しみが伝わってくるのが、選考委をもとに作品と向かい合い、素直に感想を記している。二作品とをもとに作品と向かい合い、素直に感想を記している。二作品との真質の作品は、八雲が作品の中で何を伝えたいかを読み取り、

### ◇中学生の部

応募数は昨年から二編増加し六編となった。いずれも、八雲作品

らしい素直な作品であった。と正面から向かい合い、自己の生活ともつなげて考えるなど中学生

現代の日本など、様々な視点から書かれた良作である。文化について考えている。八雲の生きた日本、そして自分が生きるに桜を生かした老人のエピソードから、八雲が描いた日本人や日本優秀賞作品は、「十六桜」という小品の中にある、命と引き換え

験を重ねるなど、素直な内容で好印象をもった。て、日本文化と西洋文化について論を進めている。筆者の生活の体優良賞作品は、「日本人の微笑」から、日本人特有の笑みを通し

(講評者 湯浅 哲司

### ◇高校生の部

本年度は優秀賞作品一編の応募であった。

わらかみのある文体で描いた力作である。 (講評者 湯浅 哲司)について多角的にまとめあげている。八雲の作品世界について、や日本文化と西洋文化、人の生と死、宗教、道徳など、八雲の感性

### ◇一般の部

と述べている。場面ごとの心情分析や、人間愛の解釈が大変優れてはのものであり、ハーンでなければ書けないものであったと思う。」「日本人よりも日本人を理解しているハーンの、すべてを包み込ん「日本人よりも日本人を理解しているハーンの、すべてを包み込ん

いる作品である。

の視点、言葉で読み解いた点が優れている。(講評者 日野 雅之) づいたという。時を超えても古びない八雲作品の魅力を、自分なり なく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせている」ことに気 まの著作が「日本人に自国の伝統文化の魅力を再認識させるだけで なく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせている」ことに気 なく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせている」ことに気 なく、その衰退や変質を警告する力も持ち合わせている。 の視点、言葉で読み解いた点が優れている。 (講評者 日野 雅之)

### 《作詞・詩》

かった。 今回は、前回よりも応募作品が大幅に増え、おもしろい作品が多

優秀賞「ムジナの冒険」は、ムジナを現代によみがえらせている。ところにオリジナリティーがある。原作の持つ不気味さが現代の不た表現も作品の深みを増している。佞良賞「八雲蟬」は、異国も含めた蟬尽くしに着想の妙を感じる。伝記的なことがらをそのまま羅めた蟬尽くしに着想の妙を感じる。伝記的なことがらをそのまま羅めた蟬尽くしに着想の妙を感じる。伝記的なことがらをそのまま羅めた蟬尽くしに着想の妙を感じる。原作の持つ不気味さが現代の不という、屈折が妙。小学生の作品から「鳥取のふとんの話」も佳作という、屈折が妙。小学生の作品から「鳥取のふとんの話」も佳作という、屈折が妙。小学生の作品から「鳥取のふとんの話」も佳作という、屈折が妙。小学生の作品から「鳥取のふとんの話」も佳作という、屈折が妙。小学生の作品から「鳥取のふとんの話」も佳作という、怪談の世界をうまく詩の形に落としこめている。

(講評者 岩田 英作・山根 繁樹)

山根 繁樹 山根 貴司 柳野 祐子【審查員】岩田 英作 谷 由美子 日野 雅之

湯浅

哲司

吉田

紀子

(五十音順

### 表紙写真

松江時代の小泉八雲(ラフカディオ・ハーン) 1891(明治24)年 小泉家蔵

平成28年度

### 「小泉八雲をよむ」 感想文·詩 入賞作品集

平成29年3月

編集·発行 松 江 市 松江市教育委員会 八 雲 会